

カーネーション(花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる)

薬剤名	系統区分	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(回数)	使用回数	灰色病	斑点病	さび病	芽腐病	根腐病	苗木立枯病	うどんこ病	べと病	炭疽病	黒星病
バシタック水75	アミド	7	*b	8	8			◎							
ポリオキシシナール乳	抗生物質	19	*b	8	8		◎								
ポリオキシシナール液	抗生物質	19	*b	8	8		◎								
トップジンM水	ベンゾイミダゾール	1	-	5	5				◎						
エムダイファー水	有機硫黄	M3	*b	8	8	◎		◎					◎	◎	
ジマンダイセン水	有機硫黄	M3	-	8	8	◎		◎					◎	◎	◎
ステンレス液	有機硫黄	M3	-	8	8		◎	◎							
リゾレックス水	有機リン	14	*c	5	5					◎	®				
タチガレン液	他	32	*a	3	3							◎			
モレスタン水	他	M10	*b	10	10							◎			

*a:定植時及び活着後

*b:発病初期

*c:生育期

®:リゾクトニア属菌による病害

カーネーション(花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる)

薬剤名	系統区分	作用 機 構 分 類 コ ー ド	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	ア ザ ミ ウ マ 類	ア ブ ラ ム シ 類	コ ナ ガ	タ バ コ ガ	オ オ タ バ コ ガ	ヨ ト ウ ム シ 類	ク ロ ウ リ ハ ム シ 類	ハ ダ ニ 類	セ ン チ ユ ウ 類
ゼンタリー顆水	B T	11A		*a	-						ハ			
カスケード乳	I G R	15		-	3				◎					
ネマトリンエース粒	殺線虫	1B		*c	1									ク
カネマイトFL	殺ダニ	20B		-	1								◎	
サンマイトFL	殺ダニ	21A	劇	-	2								◎	
ダニカット乳20	殺ダニ	19		*d	2								◎	
ピラニカEW	殺ダニ	21A	劇	*a	1								◎	
ペンタック水	殺ダニ	2A		-	-									施
アグロスリン乳	ビレスロイト*	3A	劇	*a	6		◎				◎			
アディオンFL	ビレスロイト*	3A		-	6		◎							
テルスターFL	ビレスロイト*	3A	劇	-	3								◎	
トレボン乳	ビレスロイト*	3A		*a	6		◎							
マブリック水20	ビレスロイト*	3A	劇	*a	2						ヨ		◎	
プリンスFL	フェニルピラゾール	2B	劇	*a	5	◎				◎				
アニキ乳	マクロライト*	6		*a	6					◎				
オルトラン水	有機リン	1B		*a	5			◎						
オルトラン粒	有機リン	1B		*a	5	◎	◎	◎			◎			
スミチオン乳	有機リン	1B		-	6	◎						◎		
ウララ50DF	他	29		*a	6		モ							
モレスタン水	他	UN		*a	10								◎	

*a: 発生初期

*c: 定植前

*d: 蕾の開裂前

ク: クローバーシストセンチュウ

ハ: ハスモンヨトウ

モ: モモアカアブラムシ

ヨ: ヨトウムシ

施: 施設栽培

カーネーション

カーネーション(花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
萎凋細菌病	植付前	1. 挿芽は健全株からとる。 2. 土壌消毒する(土壌消毒の項参照)。	
	生育期	・発病株はただちに抜きとる。	
立枯細菌病	植付前	・挿芽は健全株からとる。	
	生育期	・発病株はただちに抜きとる。	
さび病	生育期	・発生初期に次の薬剤のいずれかを散布する。 ジマンダイセン水和剤 400～600倍 バシタック水和剤75 500～1000倍	
立枯病	植付前	1. 挿芽は健全株からとる。 2. 次の薬剤いずれかで土壌消毒する。 ガスタード微粒剤* バスアミド微粒剤* いずれも20～30kg/10a	*花き類・観葉植物での登録
	定植時および活着後	・次の薬剤を土壌灌注する。 タチガレン液剤 500倍 3ℓ/㎡	
斑点病	生育期	・次の薬剤のいずれかを散布する。 ダコニール1000(FL)* 1000倍 ポリオキシシンAL乳剤 500～1000倍	*花き類・観葉植物での登録
うどんこ病	生育期	・次の薬剤のいずれかを散布する。 パンチョTF顆粒水和剤●* 2000倍 ポリオキシシンAL水溶剤* 2500倍 モレスタン水和剤△ 2000～3000倍	●耐性菌を生じやすいので連用しない。 △モレスタンは葉害を生じるおそれがあるので注意する。 *花き類・観葉植物での登録
アザミウマ類	生育期	・発生初期に次の薬剤を散布する。 スミチオン乳剤 1000倍	高温、乾燥期に発生が多い。
アブラムシ類	生育期	1. 発生初期に次の薬剤のいずれかを散布する。 アグロスリン乳剤 2000倍 アディオフロアブル 1500倍 ダントツ粒剤(株元散布)* 6kg/10a 2. 施設栽培ではくん煙剤を使用する(くん煙剤の項参照)。	アブラムシ類はウイルス病を媒介するので、早めに防除する。 *花き類・観葉植物での登録

カーネーション(花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
シロイチモジヨトウ	生育期	1. 施設の側面や妻面には防虫ネットを張り、害虫の侵入を防ぐ。 2. 次の薬剤を散布する。 ロムダンフロアブル* 1000倍	*花き類・観葉植物での登録
オオタバコガ	生育期	・発生初期に次の薬剤を散布する。 アフーム乳剤* 1000倍	若齢幼虫のうちに防除する。 *花き類・観葉植物での登録
ハダニ類	生育期	1. 発生初期に次の薬剤のいずれかを散布する。 サンマイトフロアブル 1000倍 ダニトロンフロアブル* 1000～2000倍 テルスターフロアブル 4000倍 ピラニカEW 1000～2000倍 モレスタン水和剤 1000倍 2. 施設栽培ではくん煙剤(くん煙剤の項参照)および次の薬剤を使用する。 ペンタック水和剤 1000～1500倍	ハダニ類は薬剤抵抗性がつきやすいので同一薬剤の連用をさけ、ローテーション散布を行う。 発生初期に防除を徹底して行う。葉裏によくかけるようにする。 *花き類・観葉植物での登録